付録第一
吉野川左側諸支川及び諸澗（渓）谷

谷川名称	長さ	吉野川との合流点の位置	水源の山	自然景観の大要
馬路川	二里	伊予街道の池田の上流一里	佐野山	旱魃の時もチョロチョロと流水を保ち、雨のよく降る季節は砂礫の流失甚だしい。高所の斜面はやせ、草だけが茂って樹林は少ない。高所に至るまで切畑がある。このような急斜面まで耕作するのは甚大な害がある。 吉野川に合流する出会に石の多い大きな砂（ママ）渚がある
※州津谷（鮎苦谷川）	二里半	州津村（池田町州津）	西山	高所に切畑のあるのは右に同じ。谷の右に大崩壊地が一か所ある。その他は草木がやや繁茂している干ばつ時にもチョロチョロと水が流れる。

※州津
原文に渋津とあるのは間違い。

附録第一
吉野左側諸支川及諸澗谷

川名谷名称	長サ	吉野川ニ会スル箇所ノ位置	水源ノ山	景況ノ大約
馬路川	二里	伊予街道ニ於ケル池田ノ上一里	佐野山	天旱ノ時モ消々流水ヲ保テリ雨沫々ノ季ハ砂礫ノ流出殊ニ多シ。高嶺ノ斜坡皆瘠貧只草ノミ遍子ク生シ樹林鮮シ。高嶺ニ至ル迄切畑（本書ニ見ヘタリ）アリ。斯ル峻坡ニ施スニ耕耘ヲ以テスルハ甚害アリ。 吉野川ニ會スル溪口ニ方リ磽确ノ大洲渚アリ
渋津谷	二里半	渋津村	西山	高所ニ切畑アルコト右ニ同シ。谷右ニ大山一崩壊一ヶ所アリ。其他ハ艸木繁生稍可ナリ。天旱ノ時モ消々水アリ。

消々＝チョロチョロ
沫々＝大ナル形容
峻坡＝斜坡（ママ）
瘠貧＝土地がやせて遍子ク。あまねく、
峻坡＝ケワシイ坂
洲渚＝スノナギサ
磽确＝石ノ多イ、ヤセ地

西谷	一里	渋津村	金昆羅山	下流川内羅石ト砾トニ成レル浅高所ノ廣六十間アリ。深低所ノ廣二十間アリ之ニハ常ニ幾分カノ流水ヲ保ツ。山質脊悪ニ非サレ氏裸禿ノ状ニ放任ス。高キ所ニ琴平神社ノ森アルノ外他ニ又樹木ノ繁生ヲ見ス	脊悪（ハイオ）＝やせて悪い 裸禿（リトク）＝マルハダカ
小川谷	二里半	渋津村	東山	蔵悪ナル嶮岨ノ間ヨリ来レル支川ヲ有ス下流ノ谷底ハ平常水無シ其廣七間平地ヲ鑿ケ深キ丁二十間ナリ。高山ヲ仰ケハ断岸雨霰欠崩アリ班々眼ニ映ス。砂砾ノ流出其太シ	蔵悪（ツイアク）＝荒廃の意 嶮岨（クシ）＝はげ山
金井谷 馬木谷 小森谷 桜谷 楠谷	半里乃至一里	瀧宮	アシロ村 内東山ノ横嶺	此三谷ハ大低急峻ナル洞流ニシテ平常ハ水無ナシ。山ハ蔵蕪ナリ景況小川谷彷彿ス	彷彿＝ボンヤリト明ラカニナラムサマ

西谷（西谷川）	一里	州津村	金比羅山	下流の川内は砂礫よりなる。浅高所は広さ（幅）六〇間あり、深低所は広さ二〇間ある。ここには常に幾分かの流水がある。山質はやせているとは言えないがはげ山で放置されている。高い所に琴平神社（箸蔵寺）の森があり、他に樹木の繁茂を見ない。
小川谷（小川谷川）	二里半	州津村	東山	荒廃したはげ山の間から流れる支流がある。下流の谷底は常は水なく、広さ七間、平地をうがち深さ二〇間である。山腹の高い所には断崖崩壊地が点々と目に映る。砂礫の流失甚だしい。
金井谷（金江谷川） 馬木谷（馬木谷川） 小森谷（小守谷川）	半里～一里	瀧宮（三好町美濃田）	足代村（三好町足代内）東山の横峰	この三谷はかなり急峻な渓流で平素は水がない。山は荒廃している。状況は、小川谷とほぼ同じ。
漆谷 楠谷				

※1 浅高所
谷底の標高の高い所、すなわち谷の浅い状況をさすか
※2 深低所
谷底の標高が低い所で谷の深い状況をさすか

※3 州津村
昼間村の間違い

ウ谷 イツキ谷 トガ谷 キリ谷 不動谷	半里以下	アシロ村	太刀野ノ横峰幹川 此所山ニ近ツク	此五谷皆急峻ニシテ短カシ 山ハ可モナク不可モナシ
黒谷 ツルイシ谷 ヲチヤマ谷	半里以下	太刀野村	同右	川線山地ノ状皆宜ニ合フ
川内谷	三里	太刀野山	太刀野山	山下ノ平地ニ於ケル渓壑ハ石礫 磽确ニシテ廣サ二百間アリ平常 流水ナシ。両岸ニ危険ナル欠崩 アリ。深口ノ近傍幹川中ニ高大 洲渚ヲ呈ス。山ニハ崩裂多ク悪 状甚シ 山麓ト幹川トノ間距離六百間ア リ。其平地上ニ高ク流出物ノ堆 積セル丁恰モ大地ノ面ニ大円錐 大率一間毎ニ二寸ノ落差即(1/30)

渓壑（ケイカク）＝谷

宜ニ合フ（ミナギ）。＝全て良く合う

大率（オオムネ）、おおむね、

※ウ谷 伊月谷 （伊月谷川） トガ谷 切谷	半里以下	足代村	太刀野の横峰 吉野本流はこの山に近い	この五谷は、みんな急峻で短い。 山は可もなく、不可もない。
不動谷 黒谷 （黒谷川） 鶴石谷 ヲチヤマ谷	半里以下	太刀野村 （三野町太刀野）	右に同じ	河川・山地の状況はすべて前記と同様である。
川内谷 （河内谷川）	三里	太刀野村	太刀野山	山の下の平地にある谷は、石の多いやせ地で広さ二〇〇間。常は流水なく、両岸に危険な崩壊地がある。川口の近くの幹川は、広大な洲渚（ママ）を作っている。山は崩壊が多く状況は悪い。 山麓と吉野川本流の間は六〇〇間ある。その平地の上に、流出物が高く積もってあたかも大円錐のようである。この平地は大体一間ごとに二寸の割合、すなわち（三〇分の一）の

※ウ谷
湯谷のことと思われる

ノ勾配ヲ以テ下ル。川壑ノ廣ハ上流ニテ二十間アレ𪜈下流ニ至レハ僅ニ三間トナル。大雨ニ尋テ到ルヘキ猛流ヲ防カン為ニ杭ヲ連子タリ此杭工ヲ以テ今ハ「コセレ谷ヨリ流出スル所ノ砾石皆幹川内ニ入ルコト、ナリ「コセレ谷ノ埆起ハ畧ホ止マレリ。我カ儒聞スル所ニ処レハ近キ十年間該谷底埆起ノ度ハ五尺ナリシトゾ。

山ハ禿ニシテ蔵悪ヲ極メ雨鋒、山林数多キヲ見ル而シテ不毛ナリ。石砾ノ流出頗ル多シ。

平常水ナシ。山ノ景況「コセレ」谷ニ比スレハ稍可ナリ

平常水絶ス。廣二十間地面頗斜急ニシテ粗大ノ砾ヲ流ス

コセ谷（三支流アリ其最長（支五十丁））

中野谷（一里）

鍋倉谷（一里半）

半田村上

半田対岸

貞光対岸

コセ山

シゲキヨ山

コサト山

川壑＝川谷

尋テ。まもなく

山琳。山林

高瀬谷（高瀬谷川）	三支流あり、最長は五〇町	重清村（美馬町重清）の上流	高瀬山	勾配で下がっている。谷の広さは上流では二〇間あるが、下流ではわずかに三間である。大雨後の激流を防ぐために、杭を連ねて打ってある。この杭工事により、今は高瀬谷より流出する砂礫はみな吉野川本流に入ることになり、高瀬谷の堆積はだいたい止まった。私が聞いたところでは、この十年間の堆積の度合いは五尺という。山ははげ山で荒廃を極め、山林は多いが不毛である。砂礫の流出は大変多い。
中野谷（中野谷川）	一里	半田村の対岸	重清山	いつもは水がない。山の状況は高瀬谷に比べてやや良好である。
鍋倉谷（鍋倉谷川）	一里半	貞光村の対岸	郡里山	いつもは水がない。広さ二〇間、地面の傾斜が急で大きな石を流す。

野村谷	二里	小田村ノ對岸		平常水無キ壑、廣九十間岸ニ欠崩多シ。山ハ禿ナリ。切畑アレ氏坊害ナシ
イグチ谷	一里半	「ワカマチ」ノ上	岩倉山	平常水無キ壑、廣百三十間砾ニ成ル、半ハ已ニ草ヲ生ス。山ハ蔵悉ナリ
オタキ谷	一里半	ワカマチ	オタキ山	平常水無キ壑礫ニ成リ両岸ノ高サ二十間乃至二十五間欠崩多シ。山ハ禿ナリ。
ソエ谷	四里	「ワカマチ」ノ下	ソエ山	谿中ニ横行スル所ノ蔓碩壙痕ノ地アルヲ見テ以テ降雨沛然ノ際猛流「ソエ」谷ヨリ臻ルノ事跡察スルニ足レリ。山麓ヨリ吉野川ニ至ル流線ノ長サ二千百間ナリ夫ヨリ湖ル九百

壙痕（コウコン）＝拡く
沛然（ハイセン）＝サカンナサマ
事跡（ジセキ）＝経路

野村谷（野村谷川）	二里	太田村（貞光町太田）の対岸	〔中野山〕	いつもは水がない。広さ九〇間。岸に崩壊地が多い。山ははげ山。切畑があるが差し障りはない。
井口谷（井口谷川）	一里半	脇町の上流	岩倉山	いつもは水がない。広さは一三〇間で石礫からできており、半分はすでに草が生えている。山は荒廃している。
オタキ谷（大谷川）（ママ）	一里半	脇町	大滝山	いつもは水がない。砂礫で形成。両岸の高さ二〇～二五間。崩壊地が多い。山ははげ山である。
曽江谷（曽江谷川）	四里	脇町の下流	曽江山	谷の中に存在する荒れたごろごろ石を見れば、大雨の際の激流が曽江谷より流れ来る様子を察することができる。山麓より吉野川に至る流れの長さは二一〇〇間である。それよりさかのぼること九〇〇間で流れは二筋に分かれる。

間ニシテ流線二条ニ支分ス。下流谿地ニ於ケル壑ノ廣平均二百七十間ニシテ幹川ニ近キ所最廣ク之ヲ三百間トシ上地ニ狹クシテ百間以内トナル。其谿地ノ壑中彼此ノ岸崖欠崩セルアリ

山間ニ入ル所ニ方リ水流左岸ノ絶壁ヲ突ク。千八百六十五年、二十年前此所ニ大崩脱ヲ来セリ其痕跡前面ノ形大率百二十間ノ底基ト百尺ノ高サトヲ具フル平面ニシテ其縁邊抛物線ヲ一拱スルカ如クニ區劃セリ。如斯崩脱ハ雨餘ノ猛流岸下ニ堀入スルニ起因ス、之ト同一轍ノ起因ヲ以テ土石片々今猶ホ毎雨ニ此ヨリ脱落ス。右悪状ヲ改正セン為水流ヲ遠クルノ方法如何ハ我之ヲ教示

ヒシ
彼此＝カレコレ

アリ。　あり

ダイホウダツ
大崩脱。大崩壊

オオヨソ
大率　おおよそ

ソコモト
底基＝底長

ヘリ
縁邊＝縁線（草木ノ）

ソナフル。＝そなえる

イッテツ
一轍＝経路

下流の谷の広さは平均して二七〇間、吉野川に近い所は最も広く三〇〇間、上流は狭く一〇〇間以内になっている。この谷のあちこちに崩落した崖がある。山間に入る所あたりに水流が左岸の絶壁に突き当たる。一八六五年《二十年前》ここに大崩壊があった。その痕跡の底面はほぼ百二十間、高さは百尺であり緑の放物線を一えぐりしたようにはっきりと区画されている。このような大崩壊は、猛烈な雨水が岸の下を堀り込んだことが原因である。これと同じ原因で土砂が、今なお降雨のたびにバラバラと崩れ落ちている。この状況を改善するために、水流を遠ざける方法を私は示した。

伊澤谷	三里	伊沢村岩津ノ下	伊沢山 其右ニ在ルヿ（メウダイ）共	セリ。谷中ノ上流ニ至テモ往々前者ニ比スレハ差ヤ小ナル山崩脱アリ此事アルヲ除クノ外ハ山ノ景況猶ヤ可ナリ且ツ切畑ノ妨害スル所多カラス山間ニ於ケルヿソエレ谷ニハ天旱ノ季ト雖ドモ漿流ヲ存ス故ニ之ヲ水管即樋ニ導テ吉野川畿地ノ稻田ニ致シ以テ其用ニ供ス 平常下流ニ水絶エタリ堅ヲ挟ミ堤塘アリ隩（オウダイ）隈（ワイ）廣七十乃至八十間ニシテ其三分一ハ草已ニ蓋フノ地ナリ。山ハ禿ニシテ只青々緑々タリ。幹川ニ向ヒ砂礫ヲ流スヘキ欠崩數多ナリ	漿（ティエク）流。水流が豊かに 致（チ）シ。致シ。漿字至らしめるの意	隩隈＝水ノマガリ入ツタ所

伊沢谷（伊沢谷川）	三里	伊沢村（阿波町伊沢）岩津の下流	伊沢山 その右（西）にある妙体山	谷中の上流でもしばしば前者に比べて小規模な崩落がある。これを除けば、山の状況はやや良好である。また切畑の弊害は少ない。曽江谷川は干ばつ時にも、水流は豊かである。そのため水管（樋）を通して吉野川渓谷地の稲田に水を供給している。 いつも下流は水なし。谷を挟んで堤防があり、曲がりくねった川原の広さは七〇～八〇間。その三分の一はすでに草が覆っている。山ははげており、ただ草が青々としている。吉野川本流に向かって砂礫を流すような崩落が多い。

大久保谷	二里	久千田村	イガサ明神	大久保山（讃岐）	凡四十間廣ノ壑ヲ挾ミ小堤ヲ設ケリ平常水絶タリ。山ト幹川トノ間距離三十丁アリ石磯ヲ流スコト伊沢谷ニ同シ。山頂ニ佳美ナル森アリ其中ニ神社アレバ固リ然ルノ理ナリ。其他ノ地ハ草タタル斜坡ノミ 天旱ノ季ハ清水消々流シテ谷口ヨリ出ツ、夏レ土民カ其流ヲ迎ヘ苦心シテ之ヲ沿岸ノ禾田ニ誘ヒ尚且ツ下流平地幾分ノ禾田ニモ之ヲ引ク所ノ者ナリ。此所ノ灌漑用水ハ水源ノ山邊ニ方リ堰堤ノ設ケヲ以テ雨水ヲ滯留セハ若シク其量ヲ増加シ得ヘシ。此流線ノ平地ニ横ハルノ距離正ニ三十間アリ其壑ノ廣概子百七十間ニシテ硝硝ノ漠野ノ中ニ南通セ
日開谷	五里半	香美村	大久保山（讃岐）		ほぼ四〇間の広さの谷を挾んで小さな堤を設置している。いつもは水がない。山と吉野川本流との間の距離は三〇丁ある。石礫を流すこと伊沢谷と同じ。山頂に綺麗な森がありその中に神社がある。これが森のある理由である。その他は、草つきの傾斜地である。 干ばつ時にも清水が谷口より流れ出る。これは、土地の人がその流れを苦心して沿岸の稲田に流し、なおまた下流平地の稲田に引いたためである。この地の灌漑用水は、水源の山辺に堰堤を作り、雨水を貯留したら、その水量を増加することができる。この用水の平地を流す距離はまさに三〇間。谷の広さ大体一七〇間で、砂礫の荒野の中に通している。
大久保谷（大久保谷川）	二里	久千田村（阿波町久千田）	伊笠明神（伊笠山）		

ビョウ 草々。草の多いさま
シャヒ 斜坡。なだ
ケンケン 消々＝細田
禾田＝稲田
ナクリュウ 滯留＝貯留
オオムネ 概子。おおむね。
バクヤ 漠野＝荒地

※丁
一丁＝一町＝約一一〇メートル

				リ。 瀑口ヨリ溯ル二里半ニシテ枝又両分ス右ニ漫ル一支長キ丁三里而シテ大久保山ヨリ出ツ左ノ一支長キ丁二里九丁ナリ。上地ノ山ハ草木密ンニ繁茂スト雖モ下地ニ於ケル甚シキ欠崩アルカ為ニ障害勘カラス。「オワリグチ」近傍ノ断岸ハ高サ三十間乃至三十五間アリテ両餘騰湧スル流水ノ為ニ掃盪セラレ下流平地ニ出テ日開谷ノ中ニ砂礫多量ヲ送流ス。其水源ニ方リ欠崩ノ所數多アリ山嘴ノ間ヨリ出ツル小支流ヨリ合成ス。流線ノ開通セル平地ヨリモ差ヤ其谷底ヲ高シトス。吉野川ノ為ニハ著シキ障害ヲナサス、
「カヨキヨ」谷	一里半	尾開村	日開谷左側ノ横嶺	
「クズ」谷	一里半	川島町ノ対岸	浦ノ池村ニ参差スル横嶺	

ボ マタリ ユウ ズ ン 枝又両分ス。 枝は枝の誤ナラン

ミツ ル。 満ツ、広がる。

スク ナ 勘カラス。 少なくなく。

ソウ トウ 掃盪 = ハライ除クコト

サン ン 山嘴（ヤマ出）山の角

				出会よりさかのぼること二里半で、二つに枝分かれする。右の支流は、長さ三里で大久保山より流れる。左の支流は二里九丁である。上流の山は草木繁茂しているが下流は甚だしい崩落があるために、障害は少なくない。※オワリグチ近郊の断崖は高さ三〇間から三五間あり、雨水によって洗われている。
金清谷（金清谷川）	一里半	尾開村（市場町尾開）	日開谷左岸の峰	下流平野の日開谷に多量の砂礫を流出している。その水源地に崩落地が多い。
九頭宇谷（九頭宇谷川）	一里半	川島町の対岸	浦ノ池村（土成町浦ノ池）に入り込んだ横峰	山間より流れ出る小支流からなる。流れ通っている平地よりやや谷底が高い。吉野川にとっては、著しい障害とはなっていない。

※オワリグチ
この地名は不明

宮川内谷	二里乃至三里	第十村ノ下田富	大山	此支流ハ幹川ヲ亞ル丁一里乃至一里半ノ地ニ立ツ所ノ前列ノ諸丘ヨリ疏シ来レル小支流ヲ合シテ成ル。砂礫幾分ノ流出アレ𪜈皆幹川ニ達セズシテ唯平地ニ留マルノミ
大坂谷	二里	大寺村	大坂山	徳島ヨリ讃岐ニ至ルノ街道ハ此谷ニ沿フテ通セリ。谷底平常水無ク両岸ニ堤塘アリ吉野川末流ニ向ヒ平地ヲ過クル所ノ壑廣十間乃至十五間アリ。砂礫ノ流出ハ多カラザルニ似タレ𪜈其実然ラズ其大量吉野川ニ入テ集積ス。山幾分ハ草木好ク蔀覆セリト雖𪜈他ニ充ナル所ト蔵積スル所トアリ
川端谷	一里	川端山	坂東山ノ横峰	景況大坂谷ニ同シ只規模小ナルノ差異アリ

堤塘＝堤防（テイトウ）

蔀覆＝夜覆（ホウフク）

蔵積。雑草が生いしげってて荒れる（ツイソン）

宮川内谷（宮川内谷川）	二〜三里	第十村の下流西中富村（板野町）	大山	この支流は、吉野川本流から一里〜一里半離れて存在する諸山より流れ来る小支流を集めている。砂礫は幾分か流出しているが吉野川本流まで達せず平地にとどまっている。
大坂谷（大坂谷川）	二里	大寺村（板野町大寺）	大坂山	徳島より讃岐に至る街道はこの谷に沿って通じている。谷底にはいつもは水がない。両岸に堤防があり吉野川末流（旧吉野川）に向かい平地を過ぎる谷の広さは一〇間〜一五間。砂礫の流失は多くないようだが、その実は違っており、大量の砂礫を吉野川（旧吉野川）に流して堆積している。山は幾分か良く、草木よく覆っているが、他にはげた所と雑草が生えた荒れ地とがある。
川端谷（富の谷川）	一里	川端村（板野町川端）	板東山の横峰	状況は大坂谷と同じ、ただし規模が小さい所が違う。

坂東谷　四里　川端村（板東ノ地ニ於ケル）　坂東山

只一ケ所ノ蔵悪ナルヲ除クノ外ハ山状一般稍佳ナリ尚ホ旦高深ノ山嶺ニハ佳美ナル森アリ此森ノ存スル所以モ亦神社佛閣ノ其中ニ立テラカ為ナルノミ若シ然ラザルキハ幾年前既ニ衰滅シタルヤ知ル可ラス

雨水ノ為ニ砂礫ノ流出スルコトハ主トシテ大ナル欠崩所アルニ由レリ方今已ニ其量大ナリ

近年各種ノ工事ヲ施シ砂礫ノ平地ニ留マルヲ得セシメズ悉皆流レテ吉野川ニ入ラシムルコト大坂谷ニ於ケルト其規一ナリ。

斯ノ同一ノ目途ヲ以テ石造ノ壁ヲ作リ川ノ両縁ヲ劃セリ。平常ハ水流絶タル此川ト雖降雨アレハ俄ニ猛流ヲ来スコト我カ遇々

稍。＝少し

方今已ニ。当はすでに。

其規。そのさだめ

板東谷（板東谷川）　四里　川端村《板東の地に於ける》　板東山

ただ一か所の荒廃地を除けば、山状は一般にやや良い。なお高い山の頂上には美しい森があり、その森のあるわけは神社仏閣がその中に建立されているためである。もしそうでなければ、幾年前に既に衰退していたか分からない。

雨水のために砂礫の流出するのは、主として大きな崩壊地があるからである。すでに、その土砂量は多い。近年、各種の工事を施し、砂礫を平地に留めず、ことごとくすべて、吉野川（旧吉野川）に流していることは大坂谷と同じである。

この谷も大坂谷と同一の目的で、川の両岸に石積みの護岸を造っている。いつもは水が流れていないこの川でも、降雨があると激流となることは、私がたまたま実見したところである。

実視スル所ノ如シ・吉野川ノ末流時々其流出物ノ為ニ一所ノ塞絶ヲ呈スル丁アリ

坂東以下ノ地ニ又タ小谷ニ三アレ氏流水皆直接ニ吉野川ニ達セス故ニ害ナシ

以上通計三四ノ涸谷流地ノ頃斜甚大ナリ故ニ沛然雨アレハ滂湃疾流ヲ来シ雨歇ムノ後復タ谷底ニ水ヲ餘サス・水源ノ山嶺ハ鹿民之ヲ蔵悪ニシテ之ヲ禿濯ニス同時ニ種々ナル氏為ニ由リ山岸ハ益々崩脱ス現ニ数多ノ崩崖ハ甚高ク且ツ危険ナル状ヲ奏スル者アリ。

塞絶（ソクゼツ）・せき止める。

頃斜（ケイシャ）・傾斜

雨歇（アメヤ）む。雨止む。

鹿民（ロクミン）＝ふもとのたみ

吉野川の末流（旧吉野川）は、時どきその流出物のために一か所がふさがれることがある。

板東（板野郡東部）の下流の地には、他に小谷二・三あるが、水流がみな直接吉野川に達することはないので被害はない。

以上、合計三四の渓谷の傾斜は甚だ急である。このため、大雨があれば沸き立つ激流が流れ、雨がやんだ後には谷底には水を残さない。水源の山頂は、麓の住民が荒らしはげ山にしてしまった。また種々の人々も山を荒らし、山はますます崩壊している。現にある崩壊地は、甚だ高くて危険な状況である。